

# 新型コロナウイルスによる運動・スポーツへの影響に関する全国調査（速報）

## ■調査の概要

### 1. 調査の目的

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、人々のスポーツ活動の機会が奪われている。また、感染封じ込めのための人と人との接触を減らす取り組みを通じて、多くの国民の身体活動量・運動量が大きく減少することが危惧されている。こうした環境下で、国民の身体活動・運動の実施状況やスポーツ観戦等のニーズがどのように変化しているのかを調査する。

### 2. 調査対象

全国の市区町村に在住する 18～79 歳までの男女 5,000 人(5,000 サンプルが地区ごとの性別・年代別人口構成比率に近似するよう割当)

### 3. 調査方法

1) 調査手法:インターネット調査

2) 調査委託機関:株式会社クロス・マーケティング

東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー24F

TEL 03-6859-2254(代表)

### 4. 調査時期

2020年6月3日(水)～6月5日(金)

### 5. 主な調査項目

基本属性:居住地、性別、年齢、職業、世帯年収、配偶者・子どもの有無等

1) 運動・スポーツ実施状況・実施頻度

2) 新型コロナウイルスに影響を受けている運動・スポーツの実施状況

3) 新型コロナウイルスの影響による生活の変化

4) 新型コロナウイルスの影響によるスポーツ環境の変化

5) 新型コロナウイルスの影響下で、取り組んでいる運動に関する情報の入手の有無と入手先

6) スポーツ観戦状況(直接スポーツ観戦、テレビやインターネットによるスポーツ観戦)

7) 新型コロナウイルスによるスポーツ観戦への影響

8) 座位時間、日常の活動

9) 新型コロナウイルスによる心身の状態への影響

10) 今後運動・スポーツを実施する際に気を付けたいこと

11) スポーツ観戦再開に向けて、イベント主催者に期待する対策

12) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会への期待

## ■主な調査結果

### 1. 新型コロナウイルスの影響で実施できなくなった種目

2019年2月以降に実施していた運動・スポーツの中で、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できなくなった種目の有無をたずねた。何らかの種目が実施できなくなった人は56.0%で、運動・スポーツを実施していた人の過半数を占めた。2020年5月までの間に実施できなくなった割合が最も高い種目は「水泳」の77.8%で、以下「野球」(71.9%)、「テニス(硬式テニス)」(70.4%)、「エアロビックダンス」(69.7%)、「ボウリング」(67.9%)などの順であった。上位10種目は、主に民間スポーツ施設や公共スポーツ施設で行われる運動・スポーツで占められており、ウイルス感染拡大による施設休業の影響がうかがえる。

図表 1. 新型コロナウイルスの影響で実施できなくなった種目(n=2,807)

順位	種目名	割合 (%)
1	水泳	77.8
2	野球	71.9
3	テニス (硬式テニス)	70.4
4	エアロビックダンス	69.7
5	ボウリング	67.9
6	バスケットボール	63.6
7	バレーボール	63.2
8	アクアエクササイズ (水中歩行・運動など)	61.7
9	卓球	59.4
10	ゴルフ (コース)	58.1

注 1) 2019年2月以降に実施していた種目のうち、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できなくなったと回答した者の割合

注 2) 2019年2月～2020年1月の1年間で実施率が高かった上位30種目から抽出

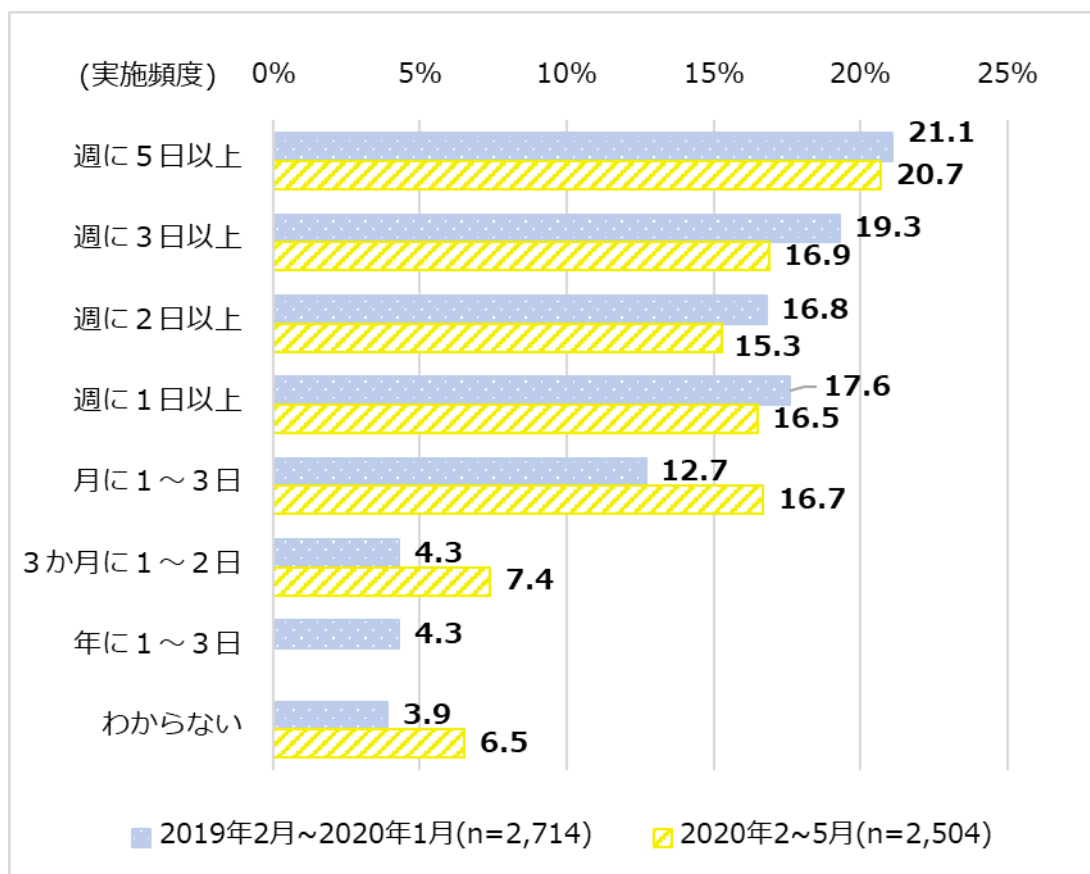
## 2. 運動・スポーツ実施頻度の変化(2019年2月～2020年1月／2020年2～5月)

2019年2月～2020年1月と2020年2～5月の期間に運動・スポーツを実施した平均の日数をたずねた。両期間とも「週に5日以上」実施している人の割合が最も高かった(21.1%、20.7%)。

2019年2月～2020年1月の実施頻度は、「週に3日以上」(19.3%)、「週に2日以上」(16.8%)、「週に1日以上」(17.6%)であり、いずれも2020年2～5月と比較すると高い結果となった。一方、2020年2～5月の実施頻度は、「月に1～3日」(16.7%)、「3か月に1～2日」(7.4%)と2019年2月～2020年1月よりも高い。

週に5日以上運動・スポーツを実施している層は新型コロナウイルス影響下においても、あまり変化は見られなかったが、週に1～3日程度運動・スポーツを実施している人は、新型コロナウイルスにより運動・スポーツの実施が妨げられて頻度が減少した可能性がある。

図表2. 2019年2月～2020年1月と2020年2～5月の運動・スポーツ実施頻度

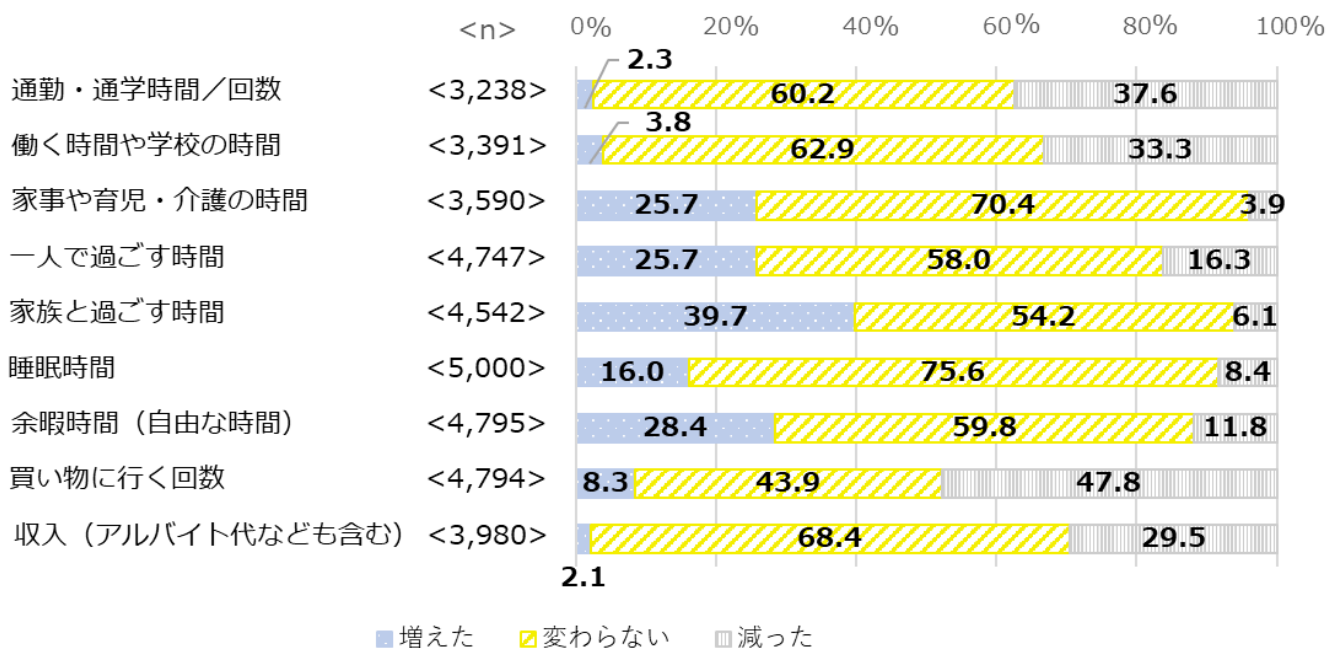


### 3. 新型コロナウイルスの影響による生活の変化

新型コロナウイルスの影響による生活の変化をたずねた。増えた項目は、「家族と過ごす時間」の 39.7%が最も高く、次いで「余暇時間(自由な時間)」(28.4%)、「家事や育児・介護の時間」「一人で過ごす時間」(25.7%)であった。減った項目は、「買い物に行く回数」が 47.8%と最も高く、次いで「通勤・通学時間/回数」(37.6%)、「働く時間や学校の時間」(33.3%)であった。

新型コロナウイルスの影響によりテレワークやオンライン授業の導入が進み、これまで通勤や通学、仕事や学業に充てられていた時間が、家族と過ごす時間や余暇時間に代わったと考えられる。

図表 3. 新型コロナウイルスの影響による生活の変化

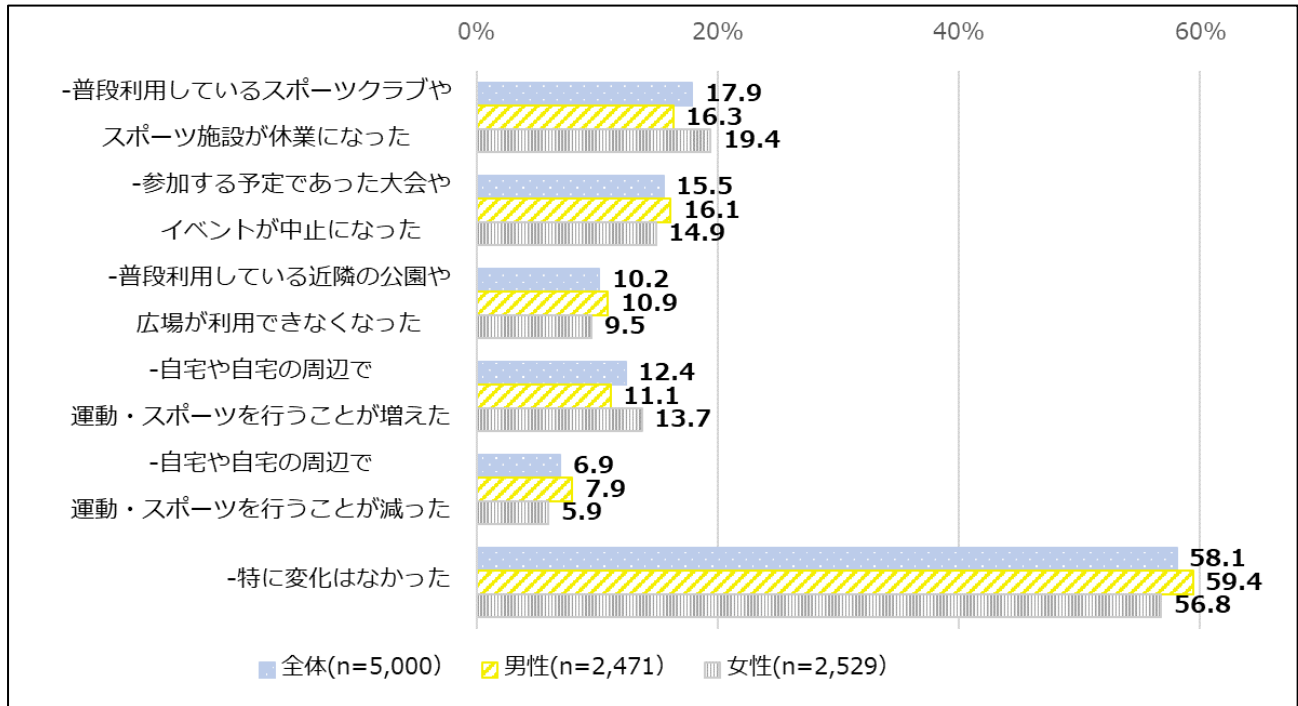


注) 各選択肢において「ない/していない」を除いて集計

#### 4. 新型コロナウイルスの影響により変化した運動・スポーツの環境

新型コロナウイルス感染拡大の影響により変化した運動・スポーツの環境をたずねた。「特に変化がなかった」が全体の 58.1%で最も高い。変化した環境で最も多い回答は「普段利用しているスポーツクラブやスポーツ施設が休業になった」の 17.9%であった。また「自宅や自宅の周辺で運動・スポーツを行うこと」は増えた人(12.4%)が減った人(6.9%)を上回る結果であった。スポーツクラブやスポーツ施設が休業となった影響もあり、自宅やその周辺で運動・スポーツを実施する人が増えたと考えられる。

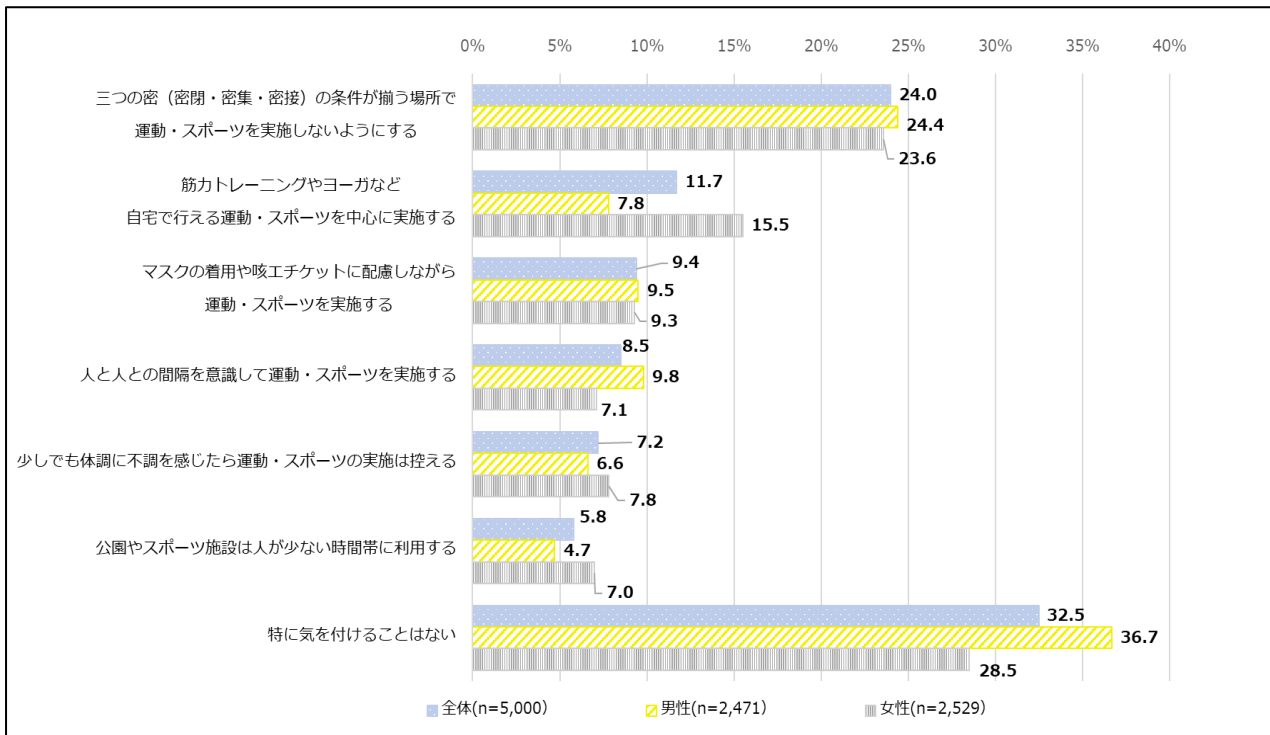
**図表 4. 新型コロナウイルスの影響により変化した運動・スポーツの環境**



### 5. 今後運動・スポーツを実施する際に、最も気を付けたいこと

今後運動・スポーツを実施する際に最も気を付けたいことをたずねた。全体のうち67.5%が何かしら気を付けたいと考えている。気を付けたい内容として最も多かった回答は、「三つの密(密閉・密集・密接)の条件が揃う場所で運動・スポーツを実施しないようにする」(24.0%)であった。また「筋力トレーニングやヨガなど自宅で行える運動・スポーツを中心に実施する」は男性(7.8%)に対して女性(15.5%)の割合が高い。今後は三つの密(密閉・密集・密接)になりにくい、自宅やその周辺でできる運動・スポーツのニーズが高まると推測される。

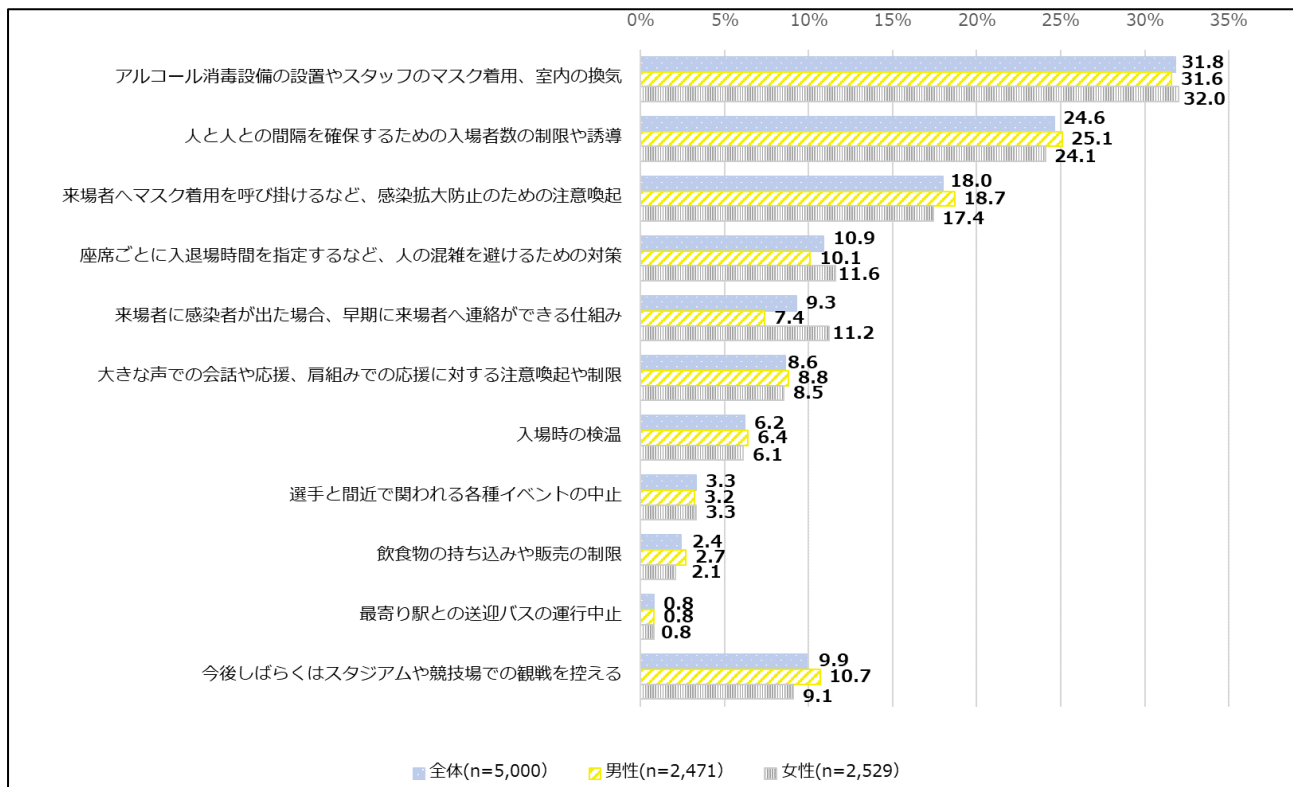
**図表5. 今後運動・スポーツを実施する際に、最も気を付けたいこと**



## 6. スポーツ観戦再開に向けてイベント主催者に期待する対策

今後スタジアムや競技場に足を運んでのスポーツ観戦を再開するために、イベント主催者に期待する対策をたずねた。期待する割合が最も高い対策は「アルコール消毒設備の設置やスタッフのマスク着用、室内の換気」の31.8%で、以下「人と人との間隔を確保するための入場者数の制限や誘導」(24.6%)、「来場者へマスク着用を呼び掛けるなど、感染拡大防止のための注意喚起」(18.0%)と続く。新型コロナウイルスへの感染対策を講じた上での観戦再開を期待する人がいる一方、「今後しばらくはスタジアムや競技場での観戦を控える」は9.9%と一定数は観戦再開に慎重な姿勢を示している。年代別にみると、今後しばらくは観戦を控えると回答した40歳以上の割合はいずれも約11%であるのに対し、18～29歳は6.3%、30歳代は8.6%と、若い世代ほど観戦を控えると回答した人の割合は低く、年代によって観戦再開への意識の違いがみられた。

図表 6. スポーツ観戦再開に向けてイベント主催者に期待する対策



図表 7. 今後しばらくは直接観戦を控えると回答した割合（年代別）

	全体 (5,000)	18～29歳 (766)	30歳代 (811)	40歳代 (958)	50歳代 (804)	60歳代 (937)	70歳代 (724)
今後しばらくはスタジアムや競技場での観戦を控える(%)	9.9	6.3	8.6	11.0	10.9	11.0	11.2